

令和4年度 第11回 江南区自治協議会

日時：令和5年3月20日（月）午後1時30分～

会場：江南区役所3階 302会議室

1. 開会

○土田地域総務課長補佐

本日は、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。定刻になりましたので、令和5年度第11回江南区自治協議会を開催させていただきます。

当会議につきましては公開することとし、記録作成のため録音及び撮影をさせていただきますのでご承知おきください。なお、本日の会議は取材のため報道機関が入っておりますので併せてご承知おきください。

資料の確認をお願いします。

(資料確認)

○土田地域総務課長補佐

本日の会議について、齋藤委員、石澤委員、佐藤委員、小野委員、工藤委員、松野委員から欠席のご報告をいただいております。

2. 会長あいさつ

○土田地域総務課長補佐

それでは、開会に伴いまして、はじめに、小林会長からご挨拶お願いいたします。

(会長あいさつ)

3. 議題

(1) 江南区生活交通改善プランについて

○小林会長

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

ご意見・ご質問のある場合は、挙手のうえ、明瞭簡潔にお願いしたいと思います。

はじめに、(1)「江南区生活交通改善プランについて」、松屋地域総務課長よりご説明をお願いいたします。

○松屋地域総務課長

地域総務課の松屋でございます。本日もよろしくお願いいたします。

それでは、資料 1-1 に基づいてご説明させていただきます。江南区生活交通改善プランは、江南区が誰もが移動しやすい持続可能な公共交通ネットワークの形成を目的に策定したものです。

本市全体の公共交通の方針については、「にいがた都市交通戦略プラン」実施計画、「新潟市地域公共交通網形成計画」が定められているところです。

それらの上位計画は、令和 4 年度で計画終期となっておりますが、改定にあたりまして新型コロナウイルスによる公共交通利用者の大幅な減少を踏まえ、その影響を考慮する調査を実施するため、改定作業に通常以上の期間が必要となりました。

そのため、江南区生活交通改善プランも同様に今年度が計画期間の最終年度となっておりますが、上位計画の改定作業を踏まえながら、上位計画に即した効果的な計画とするため、現行の改善プランの期間を令和 5 年度まで 1 年間延長することとなりましたので、ご報告いたします。

計画の延長については、住民バス運営団体、バスやタクシーの運行事業者、関係行政機関のほか、まちづくり部会から選出いただきました自治協委員にもご出席いただき、ご了承をいただいたところです。

次期「江南区生活交通改善プラン」につきましては、来年度、策定のための会議を複数回開催させていただく予定としています。第 9 期のまちづくり部会から選出いただいた委員よりご出席いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

資料 1-2 「江南区生活交通改善プラン」につきましては、詳細な説明は省略させていただきますので、後ほどご覧いただきたいと思います。

○小林会長

ありがとうございました。今ほど概要説明をいただきましたが、何かご質問はございませんか。

ただ単純に 1 年間延長したという形になるかと思えます。資料 1-2 を皆さんあとでよく内容を確認いただければと思えますので、よろしくお願いいたします。

(2) 第 9 期江南区自治協議会委員の推薦について

○小林会長

次に、(2)「第 9 期江南区自治協議会委員の推薦について」、推薦会議座長の山崎委員から説明をお願いいたします。

○山崎委員

説明させていただきます。資料 2 の差し替えをご覧いただきたいと思えます。

変更部分なのですけれども、支え合いのしくみづくり会議の委員がこのたびの人事異動に伴って変更となりました。今の差し替えの名簿のとおり、合計 30 名の次期江南区自治協議会委員について確認を行い、自治協議会へ推薦することといたします。

なお、今回の改選では、再任が 14 名、新任が 16 名となります。

以上、説明を終わりますが、ご承認をお願いしたいと思います。

○小林会長

ありがとうございました。30 名の中で今ほど説明のとおり、かなりの変更があるということですが、これは各選出母体の方は自分たちの内容を確認いただいていますよね。よろしいですか。

ということであれば、この内容で名簿のとおり推薦してよろしいでしょうか。皆様のご意見を伺いたいと思えます。

(「異議なし」の声)

ありがとうございます。では、今のこの名簿の 30 名について、次期自治協議会委員として市長に推薦したいと思えますので、ご了承いただきたいと思えます。

(3) 令和 4 年度自治協議会提案事業 事業評価について

○小林会長

続きまして、(3)「令和 4 年度自治協議会提案事業 事業評価について」、各部会長から説明をお願いしたいと思います。

まず、「まちづくり部会」の田村部会長、お願いいたします。

○田村委員

まちづくり部会ですけれども、報告させていただきます。

令和 4 年度は、令和 3 年度に引き続いて、曾野木と横越のマップを作ると

ということで、令和4年度、横越のマップを作らせていただきました。

ここに書いてあるとおり、それぞれの地域のそれぞれの魅力があつて、それを掘り起こそうということで、令和3年度は曾野木、それから令和4年度は横越のマップを作成したということでございます。

去年は、曾野木のほうの信濃川、天野の瀬替えとか、曾川切れとか、加藤順蔵さんの分を作っていたわけですがけれども、一応、今年は横越ということでマップのほうは事務局から選んでいただきまして、9月に横越のまち巡りをまちづくり部会がやったということでございます。

その際、コミュニティ協議会の佐藤会長さん、それから曾野木と同じように横越でも自治会長さんに参加してもらって説明会していただいたということでもあります。

それから、今年に入りまして1月にマップの作成途中のものですがけれども、北方文化博物館の神田館長さんを訪ねてマップを見ていただいて、そして神田館長のほうからいろいろ意見を伺ったということでございます。お手元に黄色い横越まち歩きガイドマップが今日、配られていると思いますけれども、それをやっていこうということでございます。

神田館長さんからは、横越中学校のグラウンドの北側になりますが曾我墓所遺跡とか、京都の東本願寺の大きい柱が阿賀野川から引っ張り出されて、そちらのほうの柱になったとか、いろいろな情報をいただきましたので、その辺のお話も一応、このマップのほうに入れ込んだということでございます。

曾野木は新しい新田のほうだから、あまりないのですがけれども、横越はここに書いてあるけれども、今の亀田郷の部分が横越島と言われておりまして、この横越島一帯をお城とか代官所とか旗本知行所とか、大きい庄屋さんとか、亀田郷の大部分であったということから、この地域は江南区の昔から一番発達していた部分という辺りと阿賀野川を重ね合わせて地図に載せたというところでございます。

本当に横越は水と戦った歴史というふうに言われるものがありますけれども、その辺のロードマップを、その裏のほうに16か所くらいありますけれども、できるだけつながりがあるような形で紹介するわかりやすいものになっています。ですから、全体を見れば、なんとなく横越のストーリーが分かるかなという形で一応作ったつもりでございます。

あとは、わたし的に面白いと思ったのは、阿賀野川が直接松浜から流れて

いるのではなくて、昔、今の通船川のところを流れていたということで、この辺が面白いのは、横越は阿賀野川に非常に深くかかわる地域なので、阿賀野川の松浜辺りに……書いてあるというところでございます。

これを読んでいただいて、横越の歴史が私も分かったかなというところもありますし、曾野木のほうでは小学校の教材に、昨年、曾野木マップも作成されているということです。ぜひ横越の小・中学校さんでもこれを見て、また地元の勉強にさせていただければいいかなと思っています。

○小林会長

続きまして、「安心安全部会」の山崎部会長、お願いします。

○山崎委員

安心安全部会の報告をいたします。

誰でも安心して安全に暮らせるまちづくりプロジェクトの事業評価について、ご報告いたします。

私たちは、災害発生時などにおきまして、具体的にどのような備えが役に立つのか、どのような対応が必要かを習得してもらうためにPR活動を実施したほか、子どもから大人までが「助け合い」、「支え合い」を考えるきっかけを作り、誰もが安心・安全に暮らせるまちを目指して事業を行ってまいりました。

今年度は、区役所だよりに防災Q&Aを連載するほか、助け合い絵本の配布、昨年末に作成しました助け合いカレンダーを配布いたしました。内容・実績につきましては、記載のとおりでございます。

事業の評価でございますが、区役所だよりを活用しまして、効率的に防災に関する広報ができたと思っています。また、安心安全部会で作成しました、助け合い絵本を通じ、地域で読み聞かせが行われるようになったり、カレンダーの配布を通じまして、助け合い活動を広めることができたと思っています。ところでございます。

○小林会長

続きまして、「環境・教育部会」の間島部会長、お願いいたします。

○間島委員

環境・教育部会は、多世代交流“みらい”プロジェクトとして、今年度はスポGOMI大会と亀田縮エプロン教室の二つの取組みを行いました。

10月10日に予定していました亀田西小学校では、スポGOMI大会は残

念ながら雨により中止となりましたが、先週の 3 月 12 日、曾野木小学校にて開催することができました。

当日は、3 名から 5 名で組まれている 22 チーム、81 名の参加があり、73.3 キログラムのごみを収集いたしました。ごみの種類と重さでポイントを決定し、1 位、2 位、3 位、ブービーの受賞チームに江南区の特産品をプレゼントし、大いに盛り上がりました。今週行われた新潟ハーフマラソンの前に、楽しみながらまちをきれいにすることができました。

亀田縞エプロン教室は、3 月 8 日に江南区文化会館で実施いたしました。事業に合わせて子どもを預かることとしたため、子育て中のお母さんなど 10 名の参加者が集まり、えんではよこごしの山本美幸さんから協力をいただき、亀田縞のエプロンをみんなで製作しました。

事業評価について、スポGOMI 大会は昨年度に引き続き実施しましたが、小・中学生、親世代、祖父母世代の多世代交流で地域の環境美化について改めて考える機会を提供できました。

また、亀田縞エプロン教室は、亀田縞製品に普段親しんでいない方にも参加していただき、亀田縞の魅力を発信できたと考えています。

○小林会長

ありがとうございました。

それでは、3 部会を通じまして、全体的に皆さんご質問ございませんか。ご意見はございませんか。

ないようですので、事務局から市民協働課のほうに、この内容でご報告をお願いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

4. 報告

(1) 江南区自治協議会各部会からの報告について

○小林会長

次に、報告事項に移ります。

はじめに、(1)「江南区自治協議会各部会の報告について」、「まちづくり部会」の田村部会長からお願いいたします。

○田村委員

先ほどの横越のマップを作ったということでございます。

あとは昨年 12 月に昨年作った曾野木のマップをもとに全体研修を行う予

定だったのですけれども、コロナの関係で中止になったということで、令和5年は曾野木と横越を参考にいただければ非常にいいかなと思っています。

それから、先ほど言いましたけれども、このマップを作るに際しては、コミュニティ協議会の会長さんや横越の北方文化博物館の神田館長さんなどからも、非常にいいアドバイスをいただきましたので、今後また何か地域の地元の方で、よく知っている方からいろいろな情報を得てやっていければいいかなと思っています。

とりあえず、まちづくり部会としては、成果品がやっとできたということでございます。

○小林会長

続きまして、「安心安全部会」の山崎部会長、お願いします。

○山崎委員

安心安全部会からご報告いたします。会議概要についてでございますが、事務局より配付された第8期の振り返り資料をもとに、取組みを振り返るとともに、第9期への申し送り事項といたしまして、自治協議会の課題や運営における課題解決に関する情報共有と、次期の方向性について意見交換を行いました。

主な意見としましては、記載のとおりでございます。

○小林会長

続きまして、「環境・教育部会」の間島部会長、お願いします。

○間島委員

環境・教育部会の報告については、先ほどの事業評価で話したイベントについて検討いたしました。

内容については、事業評価で報告させていただいた内容と同様ですので、詳細な報告について省略させていただきます。

○小林会長

ありがとうございました。

今までの3部会の内容につきまして、何か皆さんからご質問ございませんか。よろしいでしょうか。

(2) 第3回区自治協議会会長会議の概要について

○小林会長

次に、資料 5-1 をご覧いただきたいと思いますが、自治協議会の会長会議の報告をさせていただきます。

令和 4 年度第 3 回新潟市区自治協議会会長会議が 3 月 13 日に本庁で中原市長もご参加いただきまして開催いたしました。

お手元の資料 5-2 は、その際に使用した内容でございます。このページは 8 期を振り返った成果と課題という形になっておりますので、江南区の場合は 26 ページからとなっておりますので、あとで詳細をご覧いただきたいと思います。

この資料の今回の事業評価や各区での意見交換の概要を盛り込んだものが 4 月上旬に完成となる予定です。

この会議に同席されました中原市長から「活動の成果を、これからの第 9 期にしっかりと引き継いでもらいたい。協働の要として地域の課題解決や環境づくりに取り組んでいってほしい。この 2 年間はコロナの中での会議、活動となり、大変な状況で精力的に皆さんから活動いただいたことに感謝しております」というお言葉をいただきました。

そのほか、第 9 期の新任の委員向け研修会は、これまで各地で実施していた初任者研修ですが、8 区全体の研修会として行いたいと。内容は、自治協議会の条例、市の予算等について、市が新しい自治協議会委員に説明するところですが、期待するということでございましたので、新任の方を中心にお願いしたいと思っています。

また、研修会は 4 月中旬を予定しております。時間帯や曜日を変えて 2 回開催するという計画であります。

大まかな会長会議の内容は以上でございました。

この内容について、何か質問があればお受けいたしますが。

○樋浦委員

今、9 期の新任研修というお話があったのですがけれども、私の場合は 8 期の途中で民生委員の改選に伴って後半のところはこちらに入っているのですが、ぜひ新任研修ということであれば、9 期の方と一緒に受けたいのですが、可能でしょうか。

○小林会長

了解です。

それでは、事務局、そのように手配をお願いしたいと思いますので、よろ

しくお願いいたします。

ほかに、ございませんか。

議題と報告については以上となります。

何か全体をとおして皆さんのほうからご質問・ご意見ございませんか。ないようですので、次の議題に進めさせていただきます。

5. 連絡事項・その他

○小林会長

はじめに、今月で第8期の自治協を退任される方から個々にご挨拶をいただきたいと思えます。

(1) 退任者あいさつ

(退任委員あいさつ)

○小林会長

それでは、人事異動で異動される職員について事務局からご紹介お願いいたします。

(2) 退職職員、異動職員紹介

○土田地域総務課長補佐

はじめに、退職職員紹介と異動職員紹介として4月1日付で異動する職員からあいさつさせていただきます。

(退職職員紹介、異動職員あいさつ)

○土田地域総務課長補佐

ありがとうございました。新たに転入される方については、参考資料1として配布していますので、後ほどご覧ください。次にその他の連絡事項として、いくつか報告をさせていただきます。

次に、参考資料2として、年間の自治協議会の日程を配布しています。議会日程等により変更となる場合もございますが、後ほどご確認ください。

次に、その他の連絡事項として、いくつか報告をさせていただきます。

初めに、塚本産業振興課長からご案内です。

○塚本産業振興課長

産業振興課の塚本です。委員の皆様、大変お疲れさまでございました。

はじめに、かめだ梅の花めぐりのご案内です。会長からは桜の話が出ましたけれども、まだまだ梅も咲いてございまして、県の農業普及所のほうから当初、3月21日開花というお話をされましたが、1週間以上前に、私どもが記録した中では3月8日開花をしました。そんな関係で、これから盛り上がるかなと思ったら、そろそろ後半戦だったといいながらも、実は明日が最高の見頃を迎えます。今日ご案内できて、本当に幸せです。

花めぐりをしてくださっている市民の皆さん、たくさんいらっしゃいます。どうか恐らくこの週末は天気あまりよろしくないそうで、明日、皆様ガイドをしていただいて、梅の花を楽しんでいただければなと思っています。よろしく願いいたします。

それと亀田の郷の縞だよりの第3号ができ上がっています。年間4回出す予定ということで、現在4号は検討中ですが、今日、お出しできるのは3号ということで、皆様のお手元にお配りさせていただきました。亀田縞を通じて江南区をPRするというコンセプトで進めております。今後、自治協議会の皆様、退任される委員の皆様にオファーして載せていただく予定もございしますので、どうか快くイエスととっていただければありがたいと思っています。

○土田地域総務課長補佐

次に、古泉健康福祉課長からのご案内です。

○古泉健康福祉課長

健康福祉課の古泉です。よろしく願いいたします。退任される委員の皆様、本当にお疲れさまでした。引き続き、自治協議会、また区役所の応援等をお願いしたいと思います。

まず、私からはお手元にお配りしたA4カラーの印刷のチラシ、江南区福祉センター8周年祭をご覧いただきたいと思います。江南区福祉センターでは、今月の25日の土曜日に当館8周年の感謝を込めてイベントを開催したいと思います。

内容は、チラシのとおり、音楽ステージとイベントブースになります。音楽のステージでは、江南区福祉センターを普段利用している団体の皆様や、亀田西中学校吹奏楽部に日頃の練習の成果を披露していただきたいと思っています。

また、イベントブースでは、江南区福祉センター内にあります、子どもたちの居場所の活動紹介をはじめ、地元の亀田西小学校区コミュニティ協議会の協力のもと、亀田西中学校生徒が企画・運営する縁日、あとは福祉施設の授産品の販売、フードコーナーなど、子どもから大人まで楽しめるブースを多数用意しております。

○土田地域総務課長補佐

次に、地域総務課からのご連絡です。「江南区の公共交通」ということで、今日つけさせていただきましたバスの時刻表になります。区バスのダイヤ変更自体はありませんが、住民バスと新潟交通さんのダイヤに若干の変更がございます。この江南区の公共交通につきましては、公共施設での設置配布と、希望者がいらっしゃる場合には個別に郵送させていただくということで配布させていただきたいと思っております。

次に、令和5年度の第1回目になります区自治協議会についてのご案内になります。第1回目の自治協議会につきましては、4月25日の木曜日の午後2時30分から江南区役所で行うことで予定しております。

当日は、先ほどもありましたが新任委員向けの研修会を午後1時半から行って、その後、2時半から本会議ということで予定しております。いつもの開始時間が変わりますので、ご注意くださいようお願いいたします。

なお、例年開催していましたが、コロナで2年前はできなかったと思っておりますが、新旧の委員を含めた懇親会を行いたいと思っております。こちらは少し時間が空きますが5月25日に第2回目の自治協議会を予定しておりますが、その後、自治協議会の終わったあと懇親会を行いたいと考えています。また日程が近くなりましたら、こちらからご案内と出欠を取らせていただきますので、よろしくようお願いいたします。5月25日、木曜日を予定しております。

すみません。5月は25日がいいのですけれども、第1回目の自治協議会が4月27日です。申し訳ありません。よろしいでしょうか。

このあと市長との懇談会になりますが、一旦こちらの席の舞台転換をするために10分ほど休憩を挟ませていただいて、また集合していただければと思います。

(休憩)

6. 市長と区自治協議会との懇談会

○小林会長

それでは、始めます。まず市長からお話をいただきますが、質疑応答につきましては、本日は自治協議会委員との懇談の場であることから、ご発言は委員の方に限らせていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは、市長、内容説明をよろしく願い申し上げます。

○市長

皆さん、こんにちは。日頃から自治協議会の委員の皆様には市政のさまざまな事柄にご協力をいただくとともに、地域の協働の要として地域にご尽力をいただいておりますことを、改めて感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

今日は、現在、市議会のほうで審議をされております来年度の当初予算案について、大きな事柄、市全体の事柄になりますが、私のほうから説明をさせていただきます。どうぞよろしく願い申し上げます。

最初に、予算と申しましたけれども、その前に、令和5年度は、新潟市にとって新しい総合計画ができましたので、それを最初に若干説明させていただきます。

3 ページをご覧ください。新たな総合計画に基づく、新しいまちづくりが来年度スタートする年となります。「新潟市総合計画 2030（ニーゼロサンゼロ）」は、2023年から2030年までの8年間の計画であり、新潟市のまちづくりの方向性を示す、新潟市の最上位の計画となります。

この計画の策定にあたっては、各区の自治協議会の皆様から、多大なるご協力をいただきました。誠にありがとうございました。皆様をはじめ、広く市民の皆様の声を反映させるため、アンケートやワークショップ、審議会などを実施しながら昨年度から策定を進め、昨年12月議会で基本的な構想と計画部分について議決をいただいたところであります。

また、審議会におきましては、各区の自治協議会から1名ずつ委員に就任いただき、貴重なご意見をいただきました。

4 ページです。本市のまちづくりの考え方や方向性を示す「まちづくりの理念」は、そこに記されておりますように「みんなで新潟市の強みを活かし、人口減少時代に躍進する、『活力あふれるまちづくり』、『持続可能なまちづくり』を進めます」といたしました。

5 ページをおめくりください。目指す都市像には、将来にわたって、新潟市ならではの「心豊かな暮らし」ができるまちを実現したいとの思いから、「田園の恵みを感じながら 心豊かに暮らせる 日本海拠点都市」を掲げたところです。

6 ページです。計画の進捗管理を行うため、3 層構造の成果指標を設定し、最上位の指標となる「総合指標」には、「目指す都市像」や、新潟市の最重要課題である人口減少への対応をふまえ、「社会動態」、「合計特殊出生率」などの四つの指標を設定いたしました。

7 ページをおめくりください。目指す都市像の実現に向けて分野横断的かつ重点的に推進する施策を、「1 都市機能の充実と拠点性の向上」から「10 安心・安全で災害に強いまちづくり」まで、「10 の重点戦略」としてまとめました。

これらの重点戦略を推進することで、都市機能の充実と拠点性の向上を図り、市内全域の産業の活性化につなげます。そして、そこから生み出される活力と財源を活用し、子育て支援など、住民福祉のさらなる向上を図る「好循環」を創出していきたいと考えています。

8 ページです。本市の最重要課題である人口減少への対応について、人口減少の要因は複雑に絡みあっており、左側の少し分かりづらいですが「人口減少を和らげるイメージ図」にありますように、青丸の「合計特殊出生率の向上」と、赤丸の「社会動態の転出超過の解消」は、一つの施策によって状況が大きく改善するというものではありません。先ほど説明しました重点戦略を中心とした、あらゆる施策の総動員により対応してまいります。

9 ページをおめくりください。新潟市の持続的な発展に欠かせない、区におけるまちづくりについてです。市内 8 区には、歴史や文化、産業などさまざまな特色と魅力があふれています。その特色と魅力が「新潟市」として一つになることで、都市と田園の調和による暮らしやすさなど、新潟の持つ強みを生み出しています。

そのため、これまで以上に区の特色を前面に出しながら、個性あふれる区づくりを進めます。そして、各区の活力向上を図り、八つのカラーで成長し続ける新潟市を実現してまいります。

以上が総合計画の概要についてです。

次に、11 ページをおめくりください。新年度一般会計当初予算案は、過

去最大の3,977億円、前年度比1.4パーセント増となります。

力点の一つ目、「活力あふれる新潟へ」では「にいがた2km」に関連する事業費は、前年度から5億円を増額し、都心エリアのまちづくりを力強く推進します。

次に、二つ目、「子どもと子育てにやさしい新潟へ」では、妊娠・出産・子育て3施策の拡充を図り、合わせて3億円を増額しました。

続いて、三つ目、「活力と魅力あふれる区づくりに向けた取組の強化」では、区長提案による各区の課題解決の加速化を図り、新たに5億1,000万円の各種事業を計上したほか、西蒲区役所の新庁舎整備にも着手いたします。

また、いちばん下の「その他」に記載したとおり、建設事業費は約390億円を計上し、新潟駅直下バスターミナルの供用開始に向けた駅周辺整備事業などに取り組むほか、学校の特別教室の空調整備にも推進してまいります。

12ページです。当初予算案の概要についてです。まず、一般会計と特別会計、企業会計のそれぞれの規模は、一般会計が3,977億円、特別会計が2,539億円、企業会計が1,311億円となり、全会計の合計は、89億円増の7,827億円で前年度比1.2パーセント増となります。

次に、借金にあたります市債残高については、臨時財政対策債を除いた令和5年度末見込で約3,656億円となり、前年度比約48億円減少する見込みです。

基金残高については、令和3年度末では107億円余りでしたが、この冬の除雪費として取り崩さざるを得なくなりましたので、今年度末残高は98億円余を見込んでおりましたが、先日、国から除雪費に対する9億円の追加配分が決定されましたので、今年度末残高は104億円余となる見込みです。新年度予算では、この残高を維持・確保し、基金に頼らない6年連続の収支均衡予算を達成いたしました。

さらに、社会情勢の変化に対応した財政基盤の強化に向けた不断の見直しとして、職員数の適正化や事業の見直しも進めてまいります。

13ページをお開きください。ここからは、「3つの力点」ごとに、具体的な新規・拡充の取組みについてご説明いたします。

まず、「活力あふれる新潟へ」です。これまで、「まちづくりの大きな転換期」を見据え、都市再生緊急整備地域の指定や「にいがた2kmの覚醒」の公表など、都市機能の充実に向け、都心エリアの活性化策を積極的に展開し

てきました。

5 月にはG7 新潟財務大臣・中央銀行総裁会議が開催され、世界から注目が新潟に集まります。この大きなチャンスを逃すことのないよう、本市の魅力を日本中、世界中にアピールしてまいります。

14 ページです。企業誘致においては、「にいがた 2k m」を中心とした、現在のよい流れをさらに加速させていきます。進出を考えている企業から本市の優れたビジネス環境を試していただく取組みを新たに実施いたします。また、企業の本社機能のさらなる誘致について、支援を政令市トップクラスにまで拡充いたします。

都市機能の充実と魅力向上に向け、ハード面では、引き続き、新潟駅周辺整備事業を着実に進めます。また、旧三越周辺の再開発や仮称バスタ新潟の調査や設計に関する予算も計上しました。

ソフト面では、にいがた 2k mと 8 区の魅力を高め発信する取組みを支援いたします。また、古町花街の歴史的なまちなみの保存に向け、民間事業者の皆様と協力しながら進めていきます。

また、賑わい創出に向け、まちなかを緑で彩る取組みや、東大通の車道の一部を歩行者のための空間とする社会実験、今年度初めて開催しました「にいがた 2k m食花マルシェ」などをバージョンアップして開催いたします。

15 ページをお開きください。成長産業の育成を強化するため、デジタル社会や脱炭素社会を見据え、DXやGXなどの新たな技術を活用したビジネスの展開を一層支援し、企業の稼ぐ力を高めていきます。

農業においては、若者から選ばれるという観点も重視し「儲かる農業」を目指し、新たに親元で就農する農業者をはじめ新規就農者を支援いたします。また、官民連携による販路拡大に取り組みます。

16 ページです。働き方や暮らし方の変化というチャンスを生かし、移住定住の一層の促進に取り組みます。新たに地域おこし協力隊を活用し、テレワーカーのコミュニティ構築や情報発信など、移住者を呼び込む仕掛けを作っていきます。また、市外の副業人材などと市内の企業をマッチングすることで、企業の課題解決や、本市との関係人口を創出する取組みを開始します。

交流人口の拡大では、先ほど申しあげましたG7 新潟財務大臣・中央銀行総裁会議を通じ、本市の優れた拠点性や、おもてなしの力を国内外にアピールしていきます。また、世界遺産登録を目指す、佐渡市などとの連携により

誘客活動を積極的に展開します。加えて、新潟駅のリニューアルに合わせ、新しい駅にふさわしい観光案内センターを整備いたします。

また、県が中心となり官民で進めております新潟空港将来ビジョンの策定が検討中ではありますが、空港周辺道路の調査や検討を新潟市として進めます。

17 ページをお開きください。「子どもと子育てにやさしい新潟へ」です。市長就任後から、こども医療費助成の対象を二度、拡充したほか、病児病後児保育施設を8区で展開するなど、一定の成果が出てきています。

しかしながら、国や県からも新たな取組みが示されているなど、まだまだ子育て世帯の経済的、精神的負担は大きく、重点的に取り組んでいく必要があると考えています。

18 ページです。こうした考えのもとで、妊娠・出産期の経済的・精神的負担の軽減に向け、妊産婦医療費助成の所得制限を撤廃いたします。また、産後ケアへの助成を政令市トップ水準にまで拡充し、利用料金を引き下げます。

さらに、保育料について、多くの方からご要望をいただいております、高校3年生までの子どもを軽減対象に含める拡充を行い、「妊娠・出産・子育て3施策」を充実します。

19 ページをお開きください。すべての子どもが豊かな子ども期を過ごせるよう、こども条例に基づいて、子どもの権利擁護や社会参加などを促進します。

また、「ヤングケアラー・コーディネーター」を新たに配置するほか、障がいがあるなど、配慮が必要な子どもたちへの切れ目のない教育支援体制づくりを進めます。

そのほかにも、ICTを活用し、見守り支援や、事故防止対策など、子どもたちの安心・安全対策を強化いたします。

20 ページです。地域との連携による開かれた学びを推進するため、コミュニティ・スクールの充実や部活動の地域移行への準備を進めます。

また、子どもたちが地域の文化・歴史を体験する機会を設け、ツアー形式のプログラムを新たに実施いたします。

併せて、社会全体で子育てを応援する新潟市を推進し、民間事業者の皆様との連携をさらに進めてまいります。

21 ページをお開きください。活力と魅力あふれる区づくりに向けた取組

みです。次の三つの見直しを行い、区の予算と権限を拡大いたしました。

1 点目の「各区の課題解決」では、区民の皆様の要望を踏まえた区長からの提案を積極的に予算化できるよう、予算編成プロセスの転換を図り、住民起点でのより良い地域づくりを更に推進します。

新年度に各区で取り組む8区の主な事業は、記載のとおりです。

さらに、地域の多様な主体とのパートナーシップにより、区のまちづくりを深化させていくため、区長からの提案をもとに関係部で予算化いたしました。記載の二つの新たな事業によって、各区の取組みを後押ししていきます。

22 ページです。2 点目の「8 区の特徴を活かしたまちづくり」では、区づくり予算の実質的増額を図り、各区独自の取組みによる区づくりをさらに進めていきます。

3 点目の「修繕要望」については、各区の緊急対応予算を 1.5 倍に増額し、より多くの要望にお応えできるようにしていきます。

23 ページをお開きください。ここからは、それぞれの区の主な新規・拡充事業を掲載していますので、区長から説明をしてもらいます。

○区長

26 ページをご覧ください。私からは、江南区の主な新規事業・拡充事業について説明をいたします。

上部に記載のとおり、次期区ビジョンの目指す区の将来像は、「緑と調和した、賑わいと安らぎのあるまち」としまして、現行の区ビジョンと変更はございません。その将来像を実現するために、五つの目指す区の姿、柱を掲げまして、それに向けて事業を展開してまいります。

区の姿ですが、事業名の上に四角囲みで表示しています。

まず、「いい汗 いい食 江南健幸ライド」です。こちらは整備されたサイクリングロードを活用しまして、区の名所を自転車で周遊しながら地元の食を楽しめるサイクリングイベントの開催や、路面標示や案内板の設置など、自転車走行環境の改善を図ってまいります。

次に、「江南区商・農・福連携推進事業」です。こちらは今年度から新たに重点的に取り組む事業です。亀田駅の東口エリアに各種福祉施設が集積していることを区の特徴、強みと捉えまして、課題となっています障がい者の方の就労先の確保と人手不足の解消を図るため、商業者、農業者、福祉事業所のマッチングの仕組みを作りまして、商・農・福連携による地域の活性化

を目指してまいります。

次に、「江南区まるごとプロモーション」です。江南区の魅力である農産物や観光資源などを一体的にプロモーションするとともに、その推進体制の充実に向けて、農商工連携や官民連携を加速させる取組みを進めてまいります。

最後に、「文化芸術の創造・発信」です。区の文化芸術の発信拠点であります江南区文化会館におきまして、幅広いジャンルの質の高い文化芸術公演を区民に提供させていただきまして、文化の創造と振興を図ります。

以上で、私からの説明は終わります。

○市長

それでは、続けてもう少し説明をさせていただきます。

31 ページをお開きください。ここからは、主な新規・拡充事業を、総合計画の 10 の重点戦略の構成に基づいて掲載しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

飛びまして、45 ページをお開きください。物価高騰と新型コロナウイルス感染症への対応についてです。

まず、物価高騰に対しては今年度も厳しい状況にある皆様を支援してまいりました。加えて、新年度は、物価高騰により困窮する子育て家庭に対して、子ども食堂や、「子どもの学習・生活支援事業」での食事提供などをおして支援します。また、生活困窮者を支援する団体への補助拡大、中小企業への融資における対象者の要件緩和などを実施いたします。これらの取組みに加え、今後も、国や県と連携し、適時適切な対策に努めてまいります。

次に、都心の 49 ページをお開きください。「にいがた 2 km の覚醒」、都心のまちづくりの方向性を定めたものですが、これまで三つの基本方針に沿ってまちづくりを進めてきました。

基本方針 1 では、新潟駅南口西地区の事業をはじめとした都心部の再開発を促進するとともに、戦略的な企業誘致を推進してきました。昨年度の企業誘致件数が 8 社だったところ、今年度は 1 月末時点で 14 社と、これまで進めてきた成果が徐々に現れてきています。来年度も、都市再生緊急整備地域を活用し、支援制度のさらなる充実を図りながら、戦略的な企業誘致を推進します。

併せて、DXプラットフォームの取組みや、XRを活用した新たなビジネ

スを創出するためのプロジェクトを推進することで、稼げる都心づくりをより一層加速させていきたいと考えています。

50 ページです。基本方針 2 では、8 区と連携した V R 産直市場をオープンするなど「にいがた 2 k m×8 区連携」を促進する取組みを始めました。また、「にいがた 2 k m食花マルシェ」を初開催し、「食」と「花」の魅力を内外に向けて発信いたしました。

来年度は、食花マルシェをバージョンアップし、新たに「にいがた 2 k m 魅力創造・8 区連携支援補助金」を創設し、都心エリアにおける新たな魅力やビジネスの創出、8 区との連携を促進する事業への支援を行います。

51 ページをお開きください。基本方針 3 では、将来的な人中心の空間づくりに向け、東大通の車道の一部を活用した社会実験を行いました。また、「にいがた 2 k mフラワーフェスタ」を開催し、多くの方からご参加いただきました。

また、回遊性の向上を図るため「にいがた 2 k mシェアサイクル」の運用を開始したところです。

来年度については、「新潟駅・万代地区周辺将来ビジョン」の具現化に向けた活動への支援や、緑豊かな都市空間の実現を図るなど、ゆとりと潤いのあるまちづくりを一層進めていきます。

52 ページです。新年度新たに設置する組織についてですが、公民連携のワンストップ窓口、「公民パートナーシップデスク for Niigata」を設置いたします。

53 ページをお開きください。このパートナーシップデスクは、人口減少時代にあっても、新潟市が日本海側拠点都市として躍進していくため、民間事業者などさまざまな皆様からの提案や相談などをワンストップで受け付ける窓口です。

業務としては、今ほど申し上げた提案・相談への対応のほか、事業化に向けたサポートも行います。民間事業者の皆様などと一緒にオール新潟で、公民連携を推進することで、活力あふれるパートナーシップ型のまちづくりを進めたいと考えています。

54 ページです。右側に赤字で記載しておりますが、地域のポテンシャルに着目し、民間の方が投資する場合、区や市の活力向上にも寄与すると判断される際に、多様な地域資源との連携や情報発信、規制緩和などを考えていき

たいと考えています。

ご提案いただいた内容によっては、「副市長をトップとした検討・推進体制の設置」によって、強力にサポートさせていただければと思っています。

以上、令和5年度の当初予算の概要につきまして説明させていただきました。引き続き、市民の皆様が笑顔で希望を持って暮らすことのできる、安心安全な新潟市を作ってまいりますので、引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。

私からの説明は以上となります。

○小林会長

ありがとうございました。

続きまして、皆さんからの意見交換ということで、いろいろご質問をいただければと思っています。なんなりと挙手のうえ質問なり意見なりを積極的にいただきたいと思います。

○伊藤委員

3号委員を務めております伊藤です。市長におかれましては、いつも江南区のためにおいでいただきまして、ありがとうございます。

私のほうから毎度にことなるかもしれませんが、歴史まちづくりのことをベースにして市長にぜひお願いしたいなというところがあるのですけれども、このたびG7が新潟市で行われまして、先進国の各要人の人たちがたくさん新潟市を訪れるかと思えます。会議が終わってから、そういう方々を新潟市の魅力をアピールするのに魅力ある場所へアテンドをされるのではないかなと思うのです。

当然、中央区の古町花街、みなとまちは当然ご案内するのではないかなとは思いますが、当然、新潟市の宝である北方文化博物館もご案内するのではないかなと思っているのですが、もしそういう予定がなければ、ぜひ予定に入れてほしいと思っていますけれども、その際、ぜひ点と点、中央区から江南区、北方文化博物館までご案内して、また点と点で中央区までお戻りになるという、そういう形ではなく、ぜひ行き帰りに江南区の魅力をお伝えすべくルートを通って行ってほしいなと思うのです。

北方文化博物館まで行く間、亀田を含めた亀田、横越のすごく豊かな田園風景があります。ぜひそれを見ていただいて、そして阿賀野川の土手にあがっていただいて、阿賀野川の河川、土手は非常に自然がたくさん残っている

状況でもありますし、素晴らしいまちなみがあります。そして北方文化博物館に行ってください、それから小阿賀野川を回って、そして信濃川のほうに回ってほしいのですね。信濃川にまいますと、昔の酒屋もありますし、そこから見る弥彦山、角田山が素晴らしく見えます。それでずっと中央区のほうに信濃川沿いを通って行って中央区のほうに戻って行っていただきたい。

こういう素晴らしい水辺に囲まれた江南区という魅力がある場所があるのですよということを、ぜひ要人の人たちにお伝えして、「にいがた2km」も含め、中心部の開発も大変重要なことだと思いますが、こういった周辺の魅力のある、外国人の人たちにもすごく魅力を感じられるところも、ぜひぜひ今後とも整備にお力添えをいただければなというふうに思い、ぜひその辺、市長のお考えはどうかなと思ひまして、ご意見をさせていただきました。長くなりまして、すみません。

○市長

どうも貴重なご意見ありがとうございました。歴史ある江南区、また自然豊かな江南区、伊藤委員がお話になっていただいたとおりでであるというふう実感いたしました。

ただし、今回このG7 財務大臣・中央銀行総裁会議、私どもとしては、これまで労働大臣会合ですとか、前回のG20 農業大臣会合などでは、それぞれVIPの大臣の皆さんを現地のほうに出向いていただきまして、新潟市のスマート農業などを現地で、あるいは北方文化博物館などにおいでいただいて、現地を見ていただくことができたのですけれども、今回もまったく同じようなことを想定していたのですけれども、一ランク、財務大臣・中央銀行総裁会議ということで、これまでの閣僚会合よりも規模も、また人数も多く来ていただける一方で、大変厳しい規制が強いられてしまいまして、特にロシアのウクライナ侵攻ということで、このG7 の会議の意味合いが大変重くなりまして、新潟で行います会合が警備を含めて、日程が大変窮屈になった結果、我々いろいろな文化、それからさまざまな地域に少しでも行っていただきたいというふうに思っていたのですけれども、日程があまりにもタイトで、閣僚や中央銀行総裁の皆さんにはそうした時間を充てるのが、どうもまったくできないようであります。

一方で、そこに同行して来られる新聞記者ですとか、関係者の皆様は会議に参加しない人たちもたくさんいますので、そうした皆さんに情報を発信し

て、いろいろな新潟の魅力を発信していきたいと考えています。

いずれにしても、がっかりさせるようなことを言って申し訳ないのですが、大変こちらも当初の思惑と違ったような厳しい会議の設定になっているということを、ひとつご理解いただければと思います。

○伊藤委員

分かりました。現実的にアテンドできなくても、こういうところがありますよと。次回来たときにはぜひというふうにお伝えいただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○市長

そうさせていただきます。

○小林会長

だいぶ江南区をアピールしていただきました。皆さん、ほかに何かいろいろなことで、市政全般でも構いません。気負わずに、どんなことでもお聞きいたします。

また、ここで市長から回答いただけないものは持ち帰っていただいて、またあとでご回答いただくという措置もとれると思いますので、気負わずなんでも皆さんお願いいたします。渡邊委員。

○渡邊委員

亀田小学校区コミュニティ協議会の渡邊と申します。いつもお世話になっております。市長さんとこういう機会がありまして、ありがたく思っています。

子ども・子育て支援のことなのですが、先日、糸魚川市がタクシー会社がお腹の大きい方の研修をさせて、タクシーを利用してもらうにあたってという研修をやったのがニュースで出たのです。

それで、実はうちの娘が6年前、福岡で出産したときに、もう福岡市はそれをやっていたのです。すごくいいことで、タクシー会社のところに「私たちは妊婦の研修をしました」というステッカーが貼ってありまして、そこに登録をすると、マンションのところまで迎えに来てくれて、「お荷物ありますか」と言って聞いてくれると部屋まで来てくれ、ちゃんと病院まできちんと連れて行って来て、すごく丁寧だったのです。安心して私も一緒に同行したのですが、すごくいいねと言ったら、娘も本当にこんなところがあったなんて、ということだったのですが、実は新潟市ではそういう、糸魚

川市ではそれを今始まったのですけれども、運転手さんがお腹の大きい方を乗せたときに、もし産気づいたときに、毛布や何かを車の中に積んでおいて、福岡では何かあったときはもうコンビニの駐車場を借りて、そういう手配、救急車を呼んだりするという事になっているのです。

糸魚川市も先日、テレビでやったのですけれども、新潟市でもタクシー会社に、そういうような講習をさせていただけると、これからおじいちゃん、おばあちゃんが運転免許を返納した、あるいは転勤族で車もなく新潟に来たというときに、産気づいたりお腹が痛くなったりしたときに、一人でなかなかそれをやろうとすると大変だと思うのです。だから、そういう講習を受けてくれるタクシー会社、また赤ちゃんを産んだばかりのお母さんが安心してタクシーに乗れるということを考えていただけるとありがたいなど。

もう一つは、あまり近いとタクシー運転手さんって口を鳴らしたことがあったのです。例えば「チェッ」みたいな。うちから例えば第一病院まで車で行くと5分もかかるかかからないかなのですけれども、でも切ないときって自分で運転なんかできないし、誰もいなかったら呼ぶのですけれども、あまりにも近いと口を鳴らされたので、これは二度とこのタクシーに乗りたくないなと思いました。

それから、そういう面でもやはりお年寄りで最近免許返納をすると、よくお年寄りがタクシーでスーパーに来ているのを見かけたのです。丁寧な方はちゃんと降りて、荷物を持って中まで入ってくれるのですけれども、そうではない方はずっと乗りっぱなしで、すごく高齢者の方なんか大変そうだなと思ったのですね。

だから、妊婦さんや、あるいは高齢者の方にもそんなような気遣いができる、あるいは糸魚川市がやられたような妊婦さんを乗せても大丈夫だよというようなタクシー会社の講習等をするような予定はないでしょうか。

○市長

糸魚川の妊婦にやさしいタクシーというお話をいただきました。今、区長にちょっと振りまいたら、ないようであります。

今、こういう少子化になりましたので、また核家族化になりまして、妊産婦の皆さんの子育てに対する、子どもを産むときもそうですけれども、環境が様変わりして大変な状況だと思います。今お話しいただいたような妊婦の方をやさしく届けて送ってくれるタクシー会社があれば本当に便利であると

いうふうに今、お話を聞きながら思ったところであります。

ただし、これは新潟市がタクシー会社にやってくださいよという言い方はおそらくできないのではないかと考えていまして、タクシー会社が自分たちの会社の特性として、魅力として、自らが自分たちは産婦の方を急な呼び出しでもしっかり対応できますというようなところを打ち出すか、あるいはそうしたことを新潟市とタクシー会社が、だいたい自発的に、企業のほうでタクシー会社のほうで新潟市に提案があって、連携協定のようなものを結んでやっていくかと、いずれのような形になろうかと考えています。

いずれにしても、今いただいたお話も含めて、やはり子ども・子育てにやさしい新潟ということについては共通点があると思いますので、今後我々もそのような話があれば、ぜひ積極的に検討してきたいと思います。ありがとうございました。

○渡邊委員

ありがとうございました。

○小林会長

渡邊委員、今のお話ですけれどもね、これは部会におろして、部会の中でもそういったものを協議して、何らかの形で提言してお願いしていくという方法もあるかと思っておりますので、部会の中でも検討してみるのはいかがでしょうか。そういう気がしました。

続いて、今井委員、何かありましたよね。

○今井委員

横越コミュニティ協議会の今井です。お世話になってます。

今の渡邊委員のお話でちょっと思ったのですけれども、市として何かというのは難しいかもしれないのですけれども、企業の市サイドの取組みで、こういう事例どうですかという提案はできるのかなと思って、そうすると例えば商工会さんや何かそういうところで、住民の意見として、こういうものがあって、企業さんのほうでこういうことに取り組んでみませんかという提案は、何かどこかしら発信できるのかなというのを感じました。

それとはまた別なのですけれども、あとは市のお話だと、私先日、自分の姉と話していたときに、私は生まれも育ちも新潟なのですけれども、新潟がすごく好きで、「新潟って何もないよね」とよく話題に出るのだけれども、何もないって、なんでそう思うのだろうかということをずっと不思議に思って

いたのですね。私はあまりそんなに人混みとか、出掛けるのも好きじゃないし、全然目立ったテーマパークみたいなものがなくても、新潟って過ごしやすい暮らしやすいし、海も山も川もあるし、食べ物もおいしいし、すごくいいところだしと思っていたのだけれども、姉がそのときに「でも娯楽がないよね」という話をしたのですね。ああそういうことなんだ、ないって、ということ、そのときハッとして、例えば子どもを連れて出かけたときに、一日遊べる、しかもそこで食べ物もあって、一日とにかく過ごせるという、過ごしかれる場所ってそんなにないよね、新潟で、という話はしていて、ああそういうことなのかというのをストーンとそのときに腑に落ちて、そう思ったときに、何か施設、万代等も今はだいぶ充実してきていますがけれども、何か施設をとというのは難しいけれども、そういうイベントだったり、何か楽しい仕掛けがあるというのは何か可能性があるのかなと思って、食花マルシェがあったときに私は足を運んだのですけれども、ああいうふうにはワァーといういろいろな出店があってウロウロしながら、こういうのいいな、楽しいなと思ったのですけれども、8区連携というところを見たときに、やはり各区のPRがものすごく少なくて、単体の出店者がいるというような感覚から、もうまったく抜けていなくて、どこかが頑張ってる区のPRブースみたいなものを作っていたのですけれども、江南区はな、と思っちゃったのが正直なところでした。なので、8区連携をやっていくのだから、本当に区のPRというところを、もっと力を入れて、その魅力をぜひ発信してほしいなということ、をすごく感じたところです。

子育てのところ、市で言うと、市の総合計画の委員をさせてもらって、すごくいろいろなお話できて、本当に委員として参加できて、すごくよかったなと思っているのですけれども、子どもを産みたいと思うのって、新潟市は結婚支援などに組んでいますけれども、何よりも一人産んだ人が、もう一人産みたいと思えることがすごく重要だと思うのですよね。藤田委員も前にお孫さんのお話をされていましたが、もう一人でも十分、もう産めないと思っちゃったら、やはり一家庭に一人というところになるので、母数が少ないから絶対に子どもは増えないと思うのです。一人産んだ人が、もう一人産める、もう二人産めると思ったら、母数は少なくとも必ず子どもが増えていく社会になると思うので、やはりそう思うと産後ケアはすごく重要だと思うのですね。

国のほうでもどんどん支援が進んできていますけれども、やはりそこを先駆けて新潟市はもっとよくしていく、もっとよくしていくというふうに、産んだ人がまた産みたい、新潟市だったら産める、育てると思えるように、ぜひなって行ってほしいなと思います。

最後にもう一つ、いろいろな子育てだったり、子育て家庭だったり課題があると思うのですけれども、課題の本質をしっかりと捉えるということが、すごく大事ななと思っていて、ヤングケアラーというところが最近、すごく言われていて、言葉としてもフォーカスされることが多いと思うのですけれども、そのヤングケアラーというものがなぜ課題なのかというと、やはりその根底には子どもの権利というものが奪われているというところがあると思うのです。新潟市が今、子ども条例というものを作ったりして、そこに力を入れていくのであれば、やはりぜひヤングケアラーというところの課題の本質というのは、子どもが育つ権利だったり、学ぶ権利だったり、そういうものが奪われているから、そこに手当てが必要なのだというところの、ヤングケアラーをどうにかしようではなくて、なぜそこに手を伸ばさなければいけないのかというところを、やはりみんなで共有していく、その言葉の共有だけではなくて、課題の本質の共有をしていくというところをぜひやっていただきたいなと思います。

長くなりましたが以上です。

○市長

どうもありがとうございました。3点についてお話しいただきました。食花マルシェを言っていただきまして、大変ありがとうございました。

8区の中にいろいろな素晴らしい農産物などがあって、それを新潟市の中心部の皆さんからもぜひ、その良さを知ってもらいたい、またそれが消費につながればいいと。また、8区の皆さんもそういう中心地に出すことによって、顔が見える関係で元気が出てきて、さらに次の生産につながっていくことを、私としても期待して食花マルシェというものを開催させていただきました。

各区のPRにつきましては、また今後、区長の皆さんと相談しながら対応していきたいと考えています。

それから、子育てにつきましては、まったくおっしゃったとおりで、ですので今回、産後ケアの拡充ですとか、それは我々も頑張りまして、財源が

当然必要になりますので、政令市の中でもトップの拡充で、一日宿泊だと2,500円掛ける2で5,000円ということになっておりますし、それからやはり多子世帯の皆さん、一人産んで、また次、子どもを持ちたい数だけ産みたいと、産めるという環境を作っていくということがお話のとおり大事だというふうに思いまして、子ども・子育て3施策を拡充させていただきました。高校3年生まで、保育園料を軽減させていただくことにしましたので、そんな対応を今後もやっていきたいと思っています。

ヤングケアラーにつきましては、お話のとおり、新潟市で議員提案によって、子ども条例ができましたので、子どもの権利擁護と社会参加ということを具体的に今後進めていきたいと思っています。ありがとうございました。

○小林会長

ほかに、ございませんか。山崎委員、お願いします。

○山崎委員

大江山地区コミュニティ協議会の山崎です。今日はどうもありがとうございます。

少し話はそれるかもしれないのですが、今、大江山地区では、ちょっとした新築ブームと言いますか、ラッシュみたいな形で、あちこちに新しい住宅ですとか、アパートなんかも建っているような状態なのです。

ところが、2年ほど前にも大淵小学校区の跡地に30軒ほどの新しい団地ができたのですが、多分、そこは地元との折り合いが少し悪くて、いまだにまだ自治会組織ができていないという状態にあるのです。そういったものがあちこちにありまして、例えば地元のお宮様の氏子の問題ですとか、ごみ出しですとか、その地域に入ってくれば、いろいろな地域の仲間をいろいろな約束事ですとか、どこの土地でも、その土地に根づいている伝統や文化等、いろいろなものがあると思うのですが、そこで、要するに新しく新築する場合、許認可のところで、申請という形で行政のほうに出すと思うのですが、そういうときに、もう少し地元との話し合いを積極的に進めるようにという行政指導をしていただきたいということのお願いなのですが、もう少し、うちらもコミュニティ協議会として、自治会のほうも組織で一緒にうちのところでやっている状況にあるのですが、例えば会費の問題等もありますし、本当に地域一体となってコミュニティ活動をやっているところなのですが、そういった軋轢を生まないような、最初から話し合いの

場を持てるような、私どもも介入していきたいと思っていますけれども、そういうところで行政指導も少し強めてやっていただけないかというお願いなのですが、いかがでしょうか。

○市長

どうもありがとうございました。ご苦勞されて、なおかつ、また大事な話だというふうに思います。区長からお答えさせてください。

○区長

江南区が、すごく開発意欲が非常に皆さん旺盛で、大江山もそうですし、横越も最近そうなのですけれども、そういう話をたくさん聞きます。ただ、開発のときに要件づけみたいなことというのは。ちょっと建設課長から。

○西山建設課長

開発のときに、いろいろな条件をつけさせて、条件と言いますか、開発する前に、こういうことをしてください、ということをお願いするのですけれども、その一つに、開発の計画があったり、今後どうしていきたいかというものを地元の自治会さんのところにちゃんと説明して、それから事業に取りかかってくださいというふうなお願いは確かにさせていただいています。

ただ、恐らくですけれども、開発事業者のあとに入ってくる、住まわれる皆さんに、それがしっかりと伝わっていなかったり、そもそもその入り口の部分でうまくいっていないというところがあるかと思いますので、私どもも開発の許可を出す際には、今の話し合いを十分に踏まえて、しっかりと指導してまいりたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

○山崎委員

まさに今、課長の言ったとおりなのですね。本当にそのところがちょっと足りていないなと思うのです。よろしくお願ひします。

○西山建設課長

よろしくお願ひいたします。

○小林会長

西協委員、お願ひします。

○西協委員

曾野木コミュニティ協議会選出の西協です。よろしくお願ひします。

今ほどの話ではないのですけれども、曾野木地区にも雇用促進住宅の跡地のところに、民間さんと不動産業者でしょうか、コラボしたおしゃれな団

地があるのですけれども、そこがやはり今のお話と同じように自治会に入れずにいて、この間少し回って若い方がいらっしゃったから話にいったら、「今は困っていないですよ」みたいなことは言っていましたけれども、一時期は子どもたちが学校で、どこの自治会にも属していないみたいな、宙ぶらりんな状態が続いていたので、あっちの自治会さんの自治会長さんが、うちに入れようか、あっちに入れようか、なんていうような感じで、いまだにまだ決着がついていないような状態なので、これも時間が経ってしまったところも、やはり行政のほうから指導を促してもらって導いていただかないと、子どもたちが今後、何かいろいろな部分で支障が出るようでは困りますので、安心して住めるような環境で、外観等もすごくおしゃれで、キャンプ屋さんがかかわったので非常にいいのですけれども、内情はそうではないなんていうことがありましたので、その辺もご指導いただけたらなと思います。

私のほうから、その件ではなくて、先ほど今井委員からもありましたけれども、「にいがた2km」の食花マルシェの部分なのですけれども、これはやはり農産物であったり、各地区においていいものもありますので、非常に大事なことだと思いますけれども、先ほど伊藤委員のお話の中でもあった、各地域において、歴史的な部分、あとは伝統的な部分というものもいろいろあると思いますので、これも「にいがた2km」の中で落とし込んで、8区でいろいろなPRのブースなんかを作って、実際にそれをアピールするようなアトラクションに近いようなことができるのかどうなのか分からないのですけれども、予算もあるとは思いますが、そういうような展開もして、実際にコロナ禍がもうちょっと進んでいったときには、実際に区に足を運んでもらってという部分の、決して新潟市から出なくても、県外に行かなくても、自分たちの地元でもこんなにいいものがあるんだよというところを何かアピールする材料に、せっかく「にいがた2km」はいいスポットだと思いますので、どんどん膨らませていただけたらなということを希望します。

この「にいがた2km」を取り囲んで、いろいろなイベントなんかも仕掛けられていくと思いますので、ゆくゆくは新潟まつりだけではなくて、この「にいがた2km」を中心にお祭りの部分をいろいろな部分でできたりするのではないかなと思いますので、その辺も今後、市長さんには、これができて終わりではなくて、「何回かやったけれども」みたいなことで終わらないように、どうぞすり合わせていただければなと希望します。

また、それとは別なのですけれども、先ほど伊藤委員の熱い熱い江南アピールがありましたけれども、中央区の川辺でしょうか、やすらぎ堤のところでもミズベリング事業をやっていると思うのですけれども、江南区にも阿賀野川、信濃川、小阿賀野川という場所がありまして、やすらぎ堤とは少し趣が違いますが、ここを民間企業のキャンプ屋さんではないのですけれども、某有名なところなんかと、やすらぎ堤はコラボされていると思うのですけれども、江南区にも非常にいいところがありますので、やすらぎ堤よりも一歩先に行った自然を楽しむような施設を、多分すぐできると思うのですよね、今現在でもありますので、そういう民間企業さんをつないでいただいと、いうことを、自治協議会の中でも部会でまた話を揉んで提案させていただく中で、こういうやり方があると、民間さんをつなげるよ、みたいなことを話を進めていきたいという委員もいますので、その辺も、どうやったら民間と区をつないでという方法を教えていただけたらと思います。よろしくお願ひします。

○市長

ありがとうございました。最初のほうだけ私から答えさせていただきます。8区の魅力発信ですとか、食花マルシェなどにつきましては、例えばルフル広場もできましたし、それから新しい駅の真下に、またそこに空間ができる予定でありますし、先ほど申し上げました、新潟駅の中に観光案内センターを設けますので、各区の魅力の紹介ですとか、PRなどについては、こうした場を通じながら検討していきたいと思ひます。

○区長

今のミズベリングの江南区バージョンみたいな話なのですけれども、小阿賀野川の「いい汗いい食 江南健幸ライド」の日に併せて、今、コミュニティ協議会さんとコラボレーションしまして、カヌーですとかフィッシング大会も同時開催をして、すごく皆様に喜ばれていましたので、そういった今の実績を踏まえつつ、キャンプの事業者さんだと思ひますのでお声がけしたりということと考えられるのかなと思ひますので、またそこはご相談させていただきたいと思ひます。ありがとうございました。

○西協委員

ありがとうございます。両川地区の小阿賀野川は非常に大人気だということなので、同じ小阿賀野川で横越コミュニティ協議会さんなんかにも非常に

いい公園を持っていらっしゃるの、同時に開催すると、もっと人が、同じそのポイントだけではなくて、川自体がこういうふうな感じで使えるのだな、みたいなアピールにもつながると思いますので、もっと注目されるような展開にさせていただけたらなと思います。ありがとうございました。

○中野委員

すみません、ちょっと声が出にくくて聞き取りにくいかもしれないのですが、東曾野木小学校のコーディネーターの中野と申します。今回のページで言うと 16 ページのいちばん下に、新潟空港の将来ビジョンの策定というところで、周辺の道路の調査や検討を実施することになってはいますが、前から思っていたのが、新潟空港って、やはり日本海側の中では海外に行ける有効な空港だと思うので、ぜひハブ空港にさせていただいて、いろいろな海外から諸外国の方がいらっしゃれるような空港に発展させていただけると、もっと新潟市も発展すると思いますし、地域の活力にもつながっていくのかなと思っています。

今すぐにとすることは難しいとは思いますが、ゆくゆくは、そこまでやっていただけたらもっとこれからの新潟市の展開がすごくよくなっていくかなと思っています。

それと、20 ページの「子どもは社会の宝」というところで、「地域との連携による開かれた学びの推進」で今、部活動の地域移行に向けていろいろ進んでいるとは思いますが、もうすでにやっているのかもしれないのですが、私の認識不足かもしれませんが、新潟市ってスポーツの専門学校もありますよね。そういった大学生や短大生等の学生さんたちの活用をして、部活動を見てもらうというふうな何かそういうルートができると、ゆくゆくそれを仕事にできるというような形にしていくと、もっとそういう学校を出た子たちにも道が拓けていくのかなと思いますし、なかなかスポーツの学校を出たあとは、行き先があるような、ないようなということをよく耳にするのです。なので、ぜひ部活動を、そういう若い人たちから指導してもらおうという形に進めていけたらいいのかなと思っています。

最後にもう 1 点だけ、フードロスの問題で、農作物は規格外の物は処分されているというふうにも耳にしますので、そういうものは今すでに活用されているとは思いますが、まだまだ処分されているものも多いと思うので、そういうものの有効活用をできるような取組みを、目に見えるように

農家さんから直接、こういうものの加工品であれば使えますとか、贈答向けには無理だけれどもとか、形はこんな形ですけれども味には問題ありませんとか、そういうものをもっと発信していくと、かなりフードロスもなくなるし、子ども食堂などにも利用していただけたりするのかなと思っています。

多分、今現在もそういうものは使われてはいるとは思いますが、もっともっと発信してもいいかなと感じています。以上です。聞き取りにくくてすみません。

○市長

どうもありがとうございました。中野さんからは、いつも新潟空港の話をしていただいているような気がするのですが、ありがとうございました。

まずは今まで新型コロナでこうした公共交通、空も止まっていたので、まさにこれからだと思いますが、まずは新潟空港につきましては利用者を増やしていくということが大事になりますし、また新規就航、知事も一生懸命やっておりますので、県と連携しながら新潟空港の活性化に取り組んでいきたいと思っています。

ここに書いてあります、周辺道路の調査というのは、将来の新潟空港を民営化するコンセッションという言葉なのですが、それをする際に、商業施設を空港の中に置いてという構想がありますので、そうしたときには周辺の道路が混むだろうということで、新潟市として周辺の道路調査をやるということでもあります。

それから、部活動の地域移行につきましては、どなたかから話してもらいたいと思いますが、フードロスはお答えにはならないかもしれませんが、西区のある地域で、やはり農家の皆さんが不要になった農産物を国際情報大学のところに置いて、子ども食堂に活用しているような例がありますし、新潟市として来年度、どこかにいくよね、子ども食堂の材料の場所。フードバンクを作る予定にしています。

部活動の地域移行については。

○区長

部活動の地域移行につきましては、教育委員会のほうで今、さまざまなどというふうな、本当に今、中野さんがおっしゃったこともそうですし、あとは地域の方にやっていただくこともそうですが、ありとあらゆることを想定して考えている最中ですので、当然、専門学校ですとか、学生の

活用というのもありえる話ではあると思いますので、そういうご意見があったということで、また教育委員会のほうにお伝えさせていただきます。ありがとうございます。

○小林会長

ありがとうございます。そろそろ時間も押し迫ってまいりましたが、ほかにございませんか。

○上村委員

曾野木地区コミュニティ協議会の上村と申します。よろしく申し上げます。

私のほうは子育て支援に関してなのですけれども、私の子どももこの春、二人とも高校生になるのですが、今日も制服を注文しに行って教科書代だとかをパチパチとずっとここ数日、合格したのはいいけれども、そろばんをずっと頭の中に弾いている状態なのですけれども、私たちの給料自体も上がっていないという中で、小さいお子さんに向けてのお金の支援というのはたくさんあるのですが、上がってくると、やはりいろいろとなくなってきました。

その中で、やはりそうなると、今度、高校にあげて、大学にあげてとなってくると、どうしても教育費を一生懸命貯め込もうと思っても、貯めるのもやはりいろいろなことがあって限界もありましたし、奨学金に頼らざるをえなくなる、そうなってくると、なるべくなら子どもに借金を負わせるようなことはさせたくないのですけれども、やはり足りないとやっていけないのかな、なんて思うのです。

そうなったときに、子どもが奨学金を背負って、それを返していくという中で、今度、奨学金を背負った状態で給料もそんなに上がっていかないとすると、子どもを欲しいけれども、自分の給料で子どもを育てていけるのかという、この中学、高校と大学と上がっていく時点で、子どもを産みたいけれども産めないというところの負の連鎖がもうスタートしているような感じがするのです。

できたら、いろいろな政策があるとは思いますが、もうちょっと大きくなってからも、例えば新潟市からの奨学金、大学等で外に出たとしても、帰ってきたらいくらかお安くなりますよとか、そういったところも工夫をしていただけるとやはり選ばれる、そして帰ってくると。どうしても新潟の大学も限られているので、新潟にずっといることだけが正解ではないと

思うのです、私自身も一回大学で他県に出ていますし、帰ってきた身ですけども、そんな中で、帰ってきてくれるというか、借金を背負わなくても済むような奨学金だとかを創設していただけるといいのかなと、すごく感じています。

もう一つ、新潟空港もそうですけれども、他県で生活していた感覚で言うと、新潟市のバスに関しては、新潟駅、バスセンターを中心に放射状に各地区にバスが行っているだけで、その横がないのです。江南区からそれこそ空港に行こうと思っても、一回新潟駅を通らなければ、バスに乗り換えてでしか空港に行けないので、それだけでだいぶあれが 400 円で、あれが 300 円だと、だいぶかかりますし、時間もかかります。そうすると、やはり選ばれる空港にはなっていないのかなと。少し離れていても使いやすい空港になっていくためには、それといろいろなところに行きやすいというか、アクセスしやすいバスになるためには、横の路線も考えていただきたいなとずっと思っていました。

他県で生活した経験から言うと、一点から放射状という地区はあんまりなかったですね、新潟だけですよね。広島、大阪、横浜で生活をしてきましたが、それだとやはり、当時はよかったのだと思うのです、20 年、30 年前はお仕事に行く、学校に行くというのは中央に行けばお仕事になっていたと思うのですけれども、今はそういう時代ではないので、横のつながりを考えたバス交通を考えていただければと思います。バスがなんとかその役割を果たしつつ、周りにバスがまだやはりどうしても広がらないので、そういったところを考えていただければと思っています。まとまらずに、すみません。

○市長

どうもありがとうございます。まずは高校入学おめでとうございます。

子育て世代の方であるので、非常に説得力があって、もう答えられなくなってしまいました。私も最近、新聞で読みまして、やはり自分自身もよく大学まで親から出してもらえたなというふうに思っているのですが、そのときも確かにお金はかかったと思うのですけれども、今、30 年前と比べて、やはり実質賃金が 30 年前と変わらないと言いますか、下がっていると言いますからね、ということになりますと、今の若い方々というのは子育てが非常に負担になっていると。重いと。大学まで出すということは大変なことであるというふうに私自身も感じております。

大きな話でありますので、まさに今、政府がそういうことを考えて若い世代の皆さんにどうやったら賃金を上げられるかということを検討していただいているのではないかなと思っているところです。

新潟市としては、奨学金というお話をいただきました。いろいろな奨学金があると思いますけれども、今、いただきましたご意見も参考にしながら今後、新潟市として、どういうふうなことができるか検討していきたいと考えています。

それから、空港のバスのほうですけれども、残念ながらバスの路線については、バス会社の権限で、新潟市がここを走らせてくださいということができないという事情だけご理解いただきながら、新潟の都市の構造上、合っているかどうか分かりませんが、やはりたくさん都市が広域があつてしたということが、ほかの都市とやはりいちばん大きな違いがあるのではないかなと思っています。

太平洋側の工業地帯であれば、やはり早くから政令市になって、全域が拡充してきたと思いますし、新潟の場合はそうではなくて、80万か100万都市を目指そうということで十数の都市が平成の大合併をいたしたというところが、これはバスの話かどうかはごめんなさい、構造上の違いがあるのかなというふうに思いました。よろしくお願いします。

○小林会長

市長ありがとうございます。江南区はいろいろまだまだそういった課題が多いと思います。今の都市交通の件にしても、やはり新潟交通が独占企業といった形態もあろうかと思ったり、また今、取り沙汰されている仮称江南駅ですか、建設早期ということも市長の頭の中にあると思います。あれこれ言ってもしょうがないので、今日、皆さんからお聞きした意見を市長もしっかり持って帰られると思います。

最後に市長、私のほうからも前々から申し上げているのですけれども、いわゆる空き家や休耕地の活用、これは非常に緩和していただかないとなかなか進まないと思うのです。先ほど山崎委員のほうから自治会うんぬんの話も出ましたが、やはり江南区は意外と建物が伸びているのです。そうした段階でも、まだまだ空き地の問題、休耕地の問題、これとどういう形で自治会を構成していくかと、いろいろな諸問題があります。これは各自自治会、コミュニティ協議会でもいろいろ対応していますので、やはり最終的

にはきちんとした行政指導というものも必要かと思えますし、何せ規制緩和をまずやっていただきたいという私のお願いをもちまして、この会を閉めたいと思いますが、本日は、誠にありがとうございました。

○市長

どうも皆さん、ありがとうございました。また引き続きよろしくお願ひします。会長、答えはいいですね。

○小林会長

これは前から申し上げていることなので、十分お聞きいただいていると思いますから。

○市長

それでは、どうもありがとうございました。

7. 閉会

○坂井副会長

本日、予定されていましたが、これで終了いたしましたので閉会いたします。

次回、令和5年度第1回目の自治協議会は、4月27日（木）午後2時30分からの開催となります。

会場は、江南区役所3階、302会議室となります。

それでは、閉会いたします。お疲れさまでした。